

## II. 情報通信機器の利用状況

### 4. インターネット接続時の状態

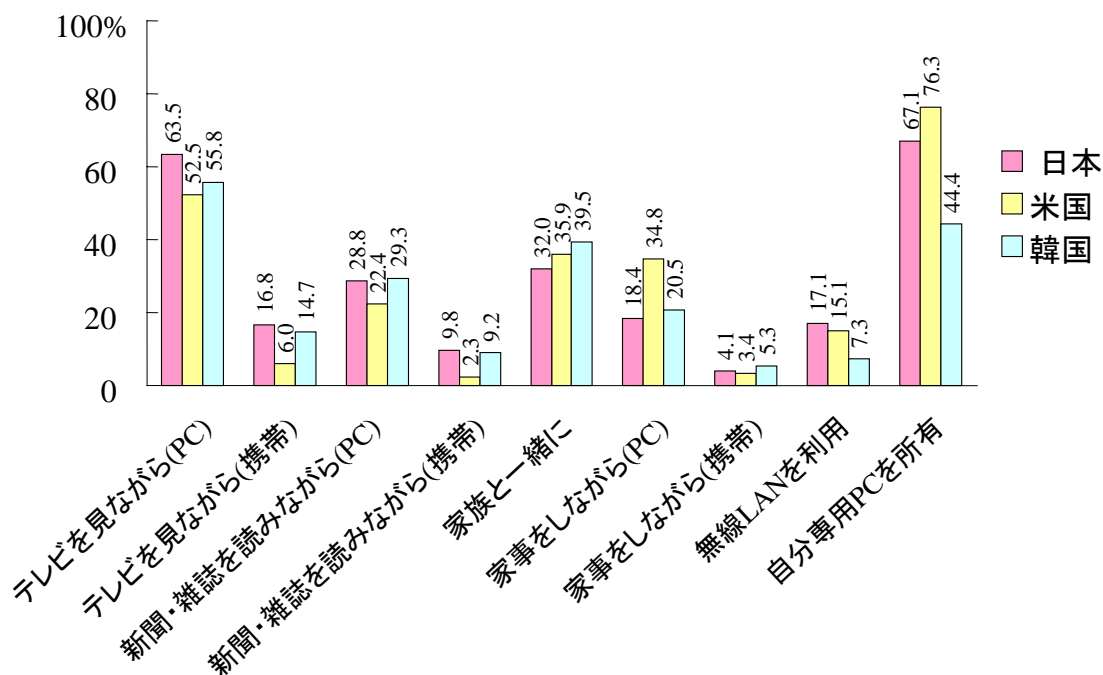
図表4は、自宅からインターネットに接続する時の状態について、日米韓の調査の回答をまとめたものである。

このグラフからわかることは、まず第一に、日本と韓国においては、米国よりも他のメディアを利用しながらパソコンや携帯情報通信機器（携帯）を使う人が多いということである。わが国においては、回答者の63.5%が「テレビを見ながらパソコンを利用している」と回答しており、これは韓国（55.8%）や米国（52.5%）よりも比率が高い。テレビを見ながら携帯を利用する人も、日本や16.8%で、韓国（14.6%）よりやや高く、米国（6.0%）よりかなり高い。「新聞・雑誌を読みながらパソコンを利用している」のはわが国では28.8%で、韓国（29.3%）よりやや低く、米国（22.4%）よりは高い。一方、「家事をしながら」パソコンを利用している人は、米国（34.8%）がもっとも高く、韓国（20.5%）、日本（18.4%）の順になっている。

家族と一緒にインターネットを利用するのは、韓国（39.5%）、米国（35.9%）、日本（32.0%）の順に高く、自分専用のパソコンでインターネットに接続している比率がもっとも高いのは米国（76.3%）で、韓国は半数以上の人自分専用のパソコンを持っていない。

図表4. インターネット接続時の状態

あなたは、自宅でどのような状態でインターネットに接続していますか。パソコンからのインターネット接続に限らず、以下の選択肢のあてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）



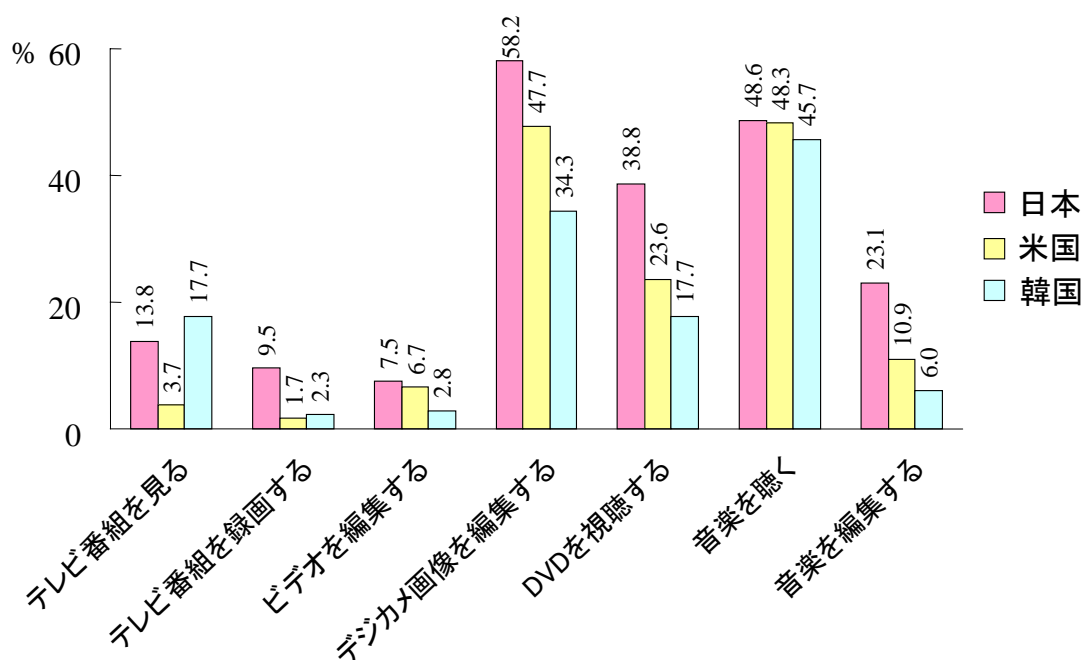
## 5.パソコンの用途

図表5は、自宅のパソコンの用途をたずねた結果を集計したものである。この図から言えることは、日本では他の国よりもパソコンの「マルチメディア端末」としての利用が進んでいるということである。たとえば、パソコンでテレビ番組を見るという人の比率は、日本（13.8%）は若い利用者が多い韓国（17.7%）ほどは高くはないものの、米国（3.7%）よりはかなり高い。「テレビ番組を録画する」人の割合は、日本（9.5%）は、米国（1.7%）はもちろん、韓国（2.3%）よりも高い。その他のすべての項目についても、3カ国の中では日本がもっとも進んでいる。

パソコンのマルチメディア端末としての利用の仕方のうち、日本でもっとも多いのが、「デジタルカメラなどで撮影した画像を編集する」であり、その比率（58.2%）は50%を超えている。デジタルカメラで録画した画像をパソコンで管理・編集することは、わが国ではすっかり定着したようだ。一方、「音楽を聴く」については、日本がもっとも比率が高いのは他の多くの項目と同じだが、他の項目よりも3カ国の差が小さくなっている。米国ではインターネットを利用した音楽配信サービスが普及しており、韓国でもP2Pソフトなどでインターネットを使って音楽ファイルを交換することが増えていると言われており、どの国でもほぼ半数の人がパソコンで音楽を聞いていることがわかる。

図表5. パソコンの用途

自宅のパソコンを次のような用途にお使いですか。（いくつでも）



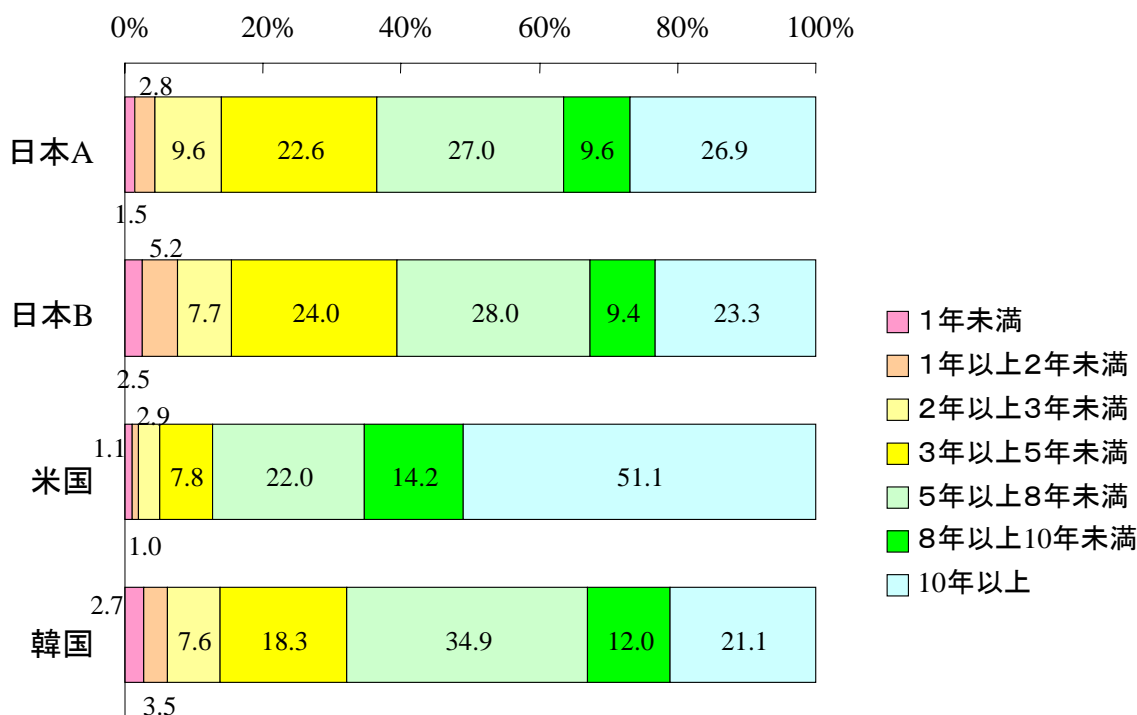
## 6. パソコンの利用経験

図表6は、パソコンの利用経験を尋ねた結果である。わが国でもっとも多いのは「5年以上8年未満」（A27.0%・B28.0%）であり、次は「10年以上」（26.9%・23.3%）、以下「3年以上5年未満」（22.6%・24.0%）、「8年以上10年未満」（9.6%・9.4%）、「2年以上3年未満」（9.6%・7.7%）の順となっている。利用経験が2年未満という人の割合はごくわずか（4.3%・7.7%）であり、サンプルにはパソコン初心者は少ないことがわかる。

米国および韓国と比較すると、米国では「10年以上」の人がもっとも多く、半数を超える（51.1%）。一方、韓国では「10年以上」の人の比率は3カ国の中ではもっとも低い21.1%で、「5年以上8年未満」がもっとも多い（34.9%）。このような違いは、パソコンやインターネットが世界で一番最初に普及した米国と、近年になってインターネットが急速に普及しているとはいえ、まだ利用者はアーリーアダプターが多い韓国との違いであると言えるだろう。

図表6. パソコンの利用経験

あなたのパソコンの利用経験はどの程度ですか（学校・職場での利用も含む）。



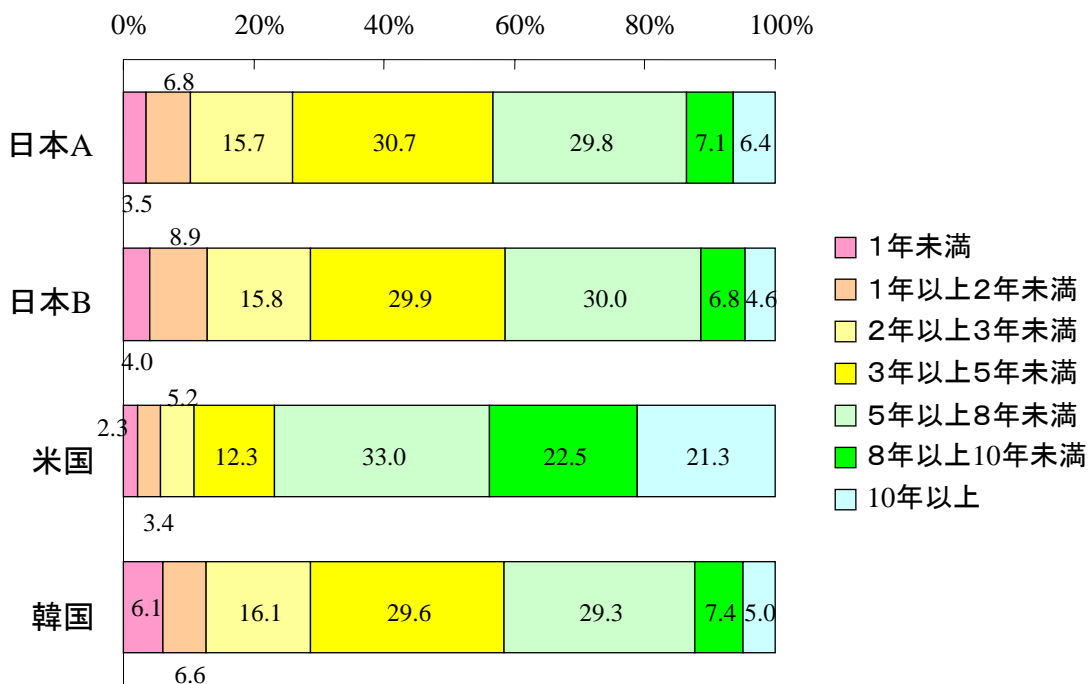
## 7.インターネット利用経験

図表7は、回答者の自宅におけるインターネット利用経験年数をまとめたものである。わが国では、「3年以上5年未満」（A:30.7%・B:29.9%）と「5年以上8年未満」（29.8%・30.0%）という回答がほぼ同じくらいでもっとも多い。3番目に多いのは「2年以上3年未満」（15.7%・15.8%）であった。5年以上のインターネット利用経験のある人の割合は4割強（43.3%・41.4%）であり、5年以上のパソコン利用経験のある人の割合（63.5%・60.7%）と比べるとかなり小さくなる。また、自宅からのインターネットの利用経験が2年未満である人の割合は15%以下であり、回答者の中には、インターネット利用初心者は少ないことがわかる。

米国では、他の国に比べて「10年以上」の割合が高く（21.3%）、「1年未満」の割合が低い（2.3%）。韓国調査のサンプルのインターネット利用経験は、「1年未満」がやや多い（6.1%）ものの、日本とほぼ同じである。

図表7. インターネット利用経験

あなたの自宅のパソコンからのインターネット利用経験はどの程度ですか。



## 8.インターネット接続環境

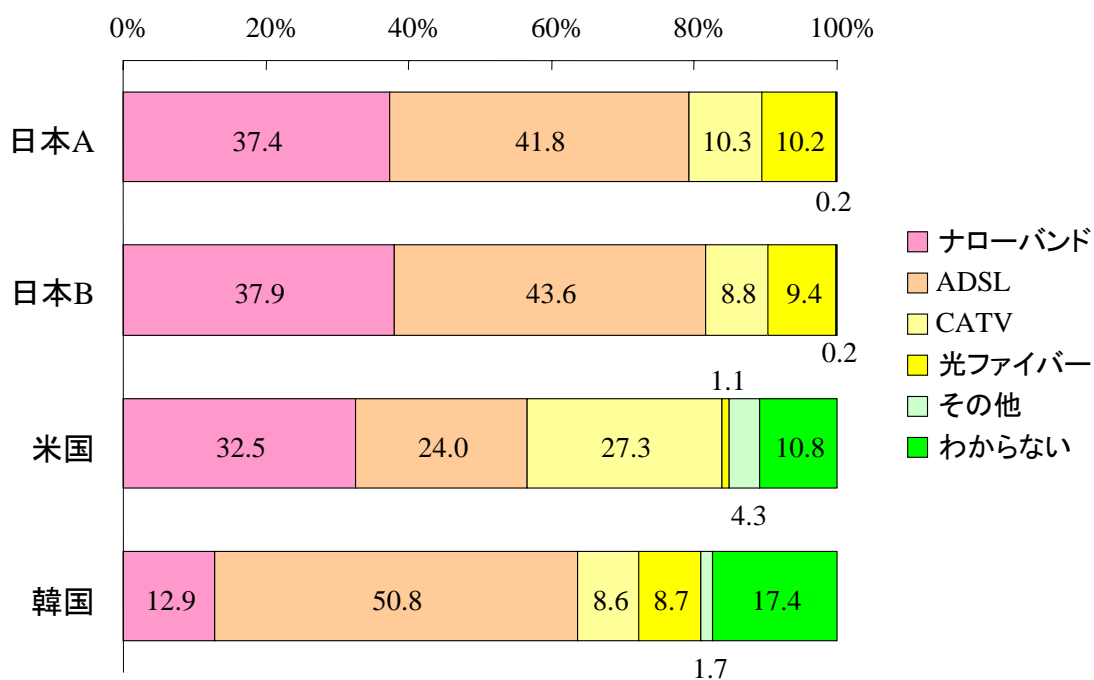
図表8は、自宅における現在のインターネット接続環境をたずねた結果である。国内調査では、アンケート実施にあたり、ブロードバンド利用者（ADSL、CATV、光ファイバー）とナローバンド利用者（それ以外）の割合を6対4として割付を行っているため、年齢で加重調整した後も、ナローバンドの比率は調査Aも調査Bもほぼ38%で同じになっている。ブロードバンドをADSL、CATV、光ファイバーという回線種別にみると、もっとも多いのはADSLで全体の4割以上を占める。CATVと光ファイバーの利用者の比率はほぼ同じである。このグラフにはないが、ADSL利用者の中で通信速度別に割合を見ると、大半が10Mbps以上である。逆にCATVは10Mbps以下の割合の方が大きくなっている。

米国については、ブロードバンド利用者（ADSL、CATV、光ファイバー）とナローバンド利用者がほぼ同じ比率になるように、事前の割付を行った。ADSLの比率が低い（24.0%）一方で、CATVの比率が高い（27.3%）点が、明らかにわが国とは異なっている。

韓国では事前の割付は行っておらず、ADSLはほぼ半分（50.8%）、CATVと光ファイバーがほぼ同じ（8.6%と8.7%）で、ナローバンド利用者の比率は低い（12.9%）。

図表8. インターネット接続環境

あなたの自宅における現在のインターネット接続環境（回線種別）はどれですか。  
上りと下りスピードが異なる場合は数字の大きなほうでお答えください。



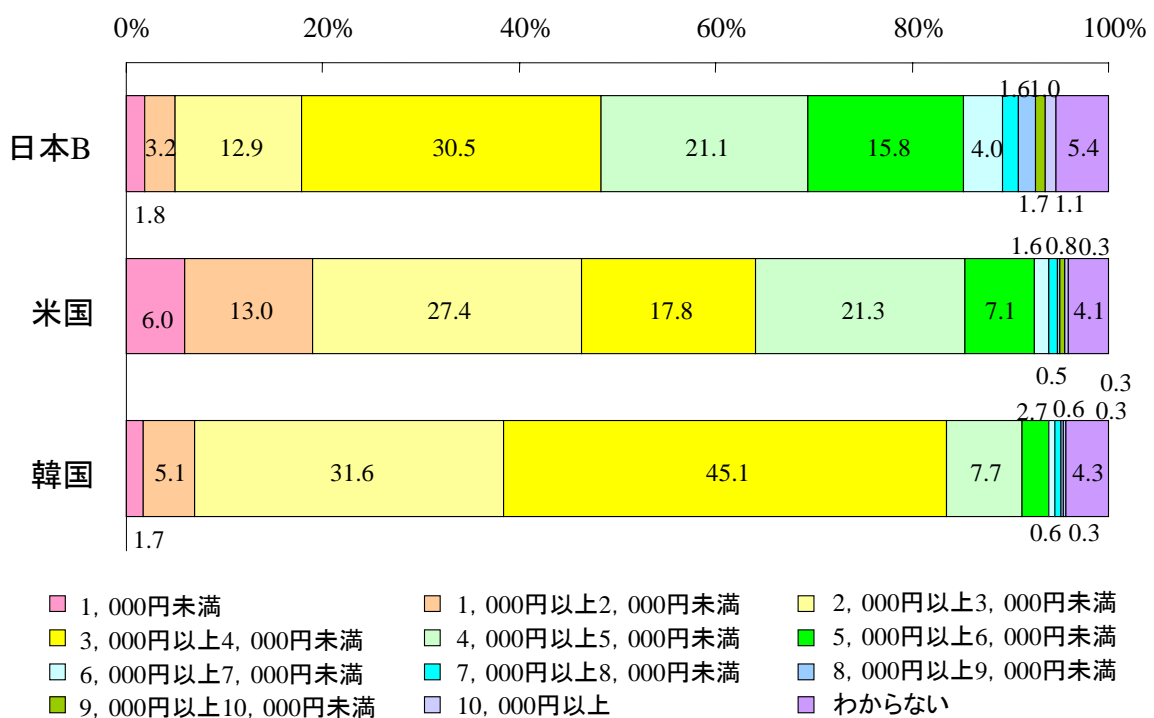
## 9.接続費用

図表9は、自宅のパソコンからのインターネット接続にかかわる費用（月額の平均値）を集計したものである。わが国でもっとも多いのは3,000円以上4,000円未満の料金帯で、全体の30.5%を占める。次いで、4,000円以上5,000円未満（21.1%）、5,000円以上6,000円未満（15.8%）、2,000円以上3,000円未満（12.9%）の順になっている。

為替レートや購買力の違いの調整が必要なために直接的な国際比較はできないが、米国では（1ドル=100円と考えた場合）もっとも多いのが2,000円以上3,000円未満相当の料金帯で（27.4%）、韓国でもっとも多いのは（1ウォン=0.1円と考えた場合）3,000円以上4,000円未満の料金帯である（45.1%）。

図表9. 接続費用

あなたは現在、自宅のパソコンからのインターネット接続に毎月どの程度費用をかけていますか。



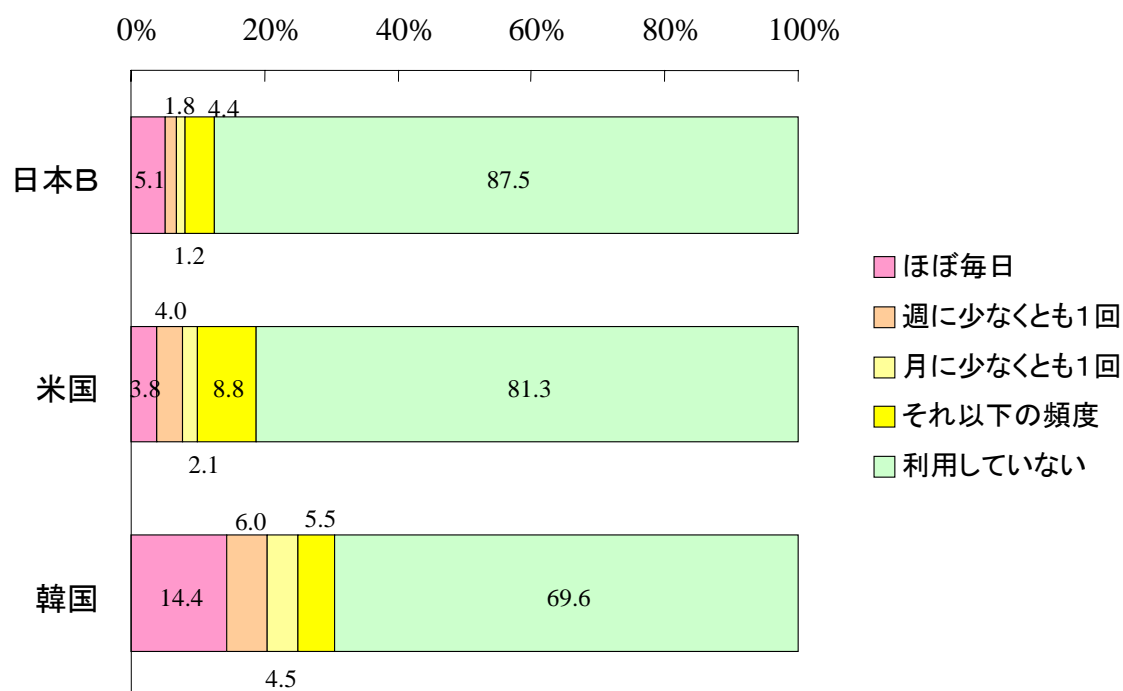
## 10.ホットスポット（公衆無線LAN）の利用状況

図表10は、ホットスポット、すなわち公衆無線LANの利用状況を集計したものである。ホットスポットの利用者がもっとも高いのは韓国（40.4%）であり、次いで米国（18.7%）、日本（12.5%）となっている。韓国では、インターネットはもともと「PC房」（日本のインターネット喫茶のようなもの）と呼ばれる場所で普及した経緯があり、自宅以外でパソコンを使うことが多いから無線LANの利用者も多いのかもしれない。一方、米国では「ほぼ毎日」利用するようなヘビーユーザーの比率は韓国や日本よりも少ないが、空港のような公共施設やスターバックスのようなレストランなどでは公衆無線LANがわが国よりも普及しているため、利用者の比率はわが国よりも高くなっていると考えられる。

わが国では、「ほぼ毎日」利用しているヘビーユーザーの比率は米国よりは高いものの、全体的な利用者は多いとはいえない。わが国ではホットスポットの設置に対する障害もあり、また料金の体系もADSLや光ファイバーといった固定回線よりは固定的で、水準もいまだ高いレベルにある。「どこでもいつでもネットワークに接続できる」という本当の意味での「ユビキタス」環境をわが国に定着させるためには、公衆無線LANを普及させるための政策も必要であろう。

図表10. ホットスポット（公衆無線LAN）の利用状況

あなたはホットスポット（公衆無線LAN）をどのくらい利用していますか。



## 11. 公衆無線 LAN サービス等の提供エリア数

図表 11 は、ブロードバンド情報サイトのRBB TODAY (<http://www.rbbtoday.com/hotspot/>) 内の「公衆無線スポット（ホットスポット）検索」のウェブページで、47都道府県の県名を入力して公共空間における高速無線アクセスポイント（公衆無線 LAN サービス等）の検索を行い、都道府県別のその数を集計した結果である。

公衆無線 LAN サービス等の数は、2005 年 3 月末時点で 7,955 に達しており、2004 年 3 月末時点の 5,350 から 48.7 % 増加している。

都道府県別にみると、東京（2,150）がもっとも多く、次いで大阪（764）、愛知（495）、京都（386）、神奈川（321）の順になっており、やはり公衆無線 LAN サービス等の提供エリアは、大都市を抱える都道府県に多いことがわかる。

ちなみに、公衆無線 LAN サービス等の提供エリアの数がもっとも少ない都道府県は、佐賀（20）であり、次いで秋田（22）、以下、岩手（27）、長崎（32）、徳島（34）、鳥取（34）、青森（36）の順となっている。

（注）「ホットスポット」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の登録商標である。

図表11. 公衆無線LANサービス等の提供エリア数の推移

県	件数	県	件数	県	件数
北海道	216	長野	215	島根	40
青森	36	石川	91	広島	145
岩手	27	富山	90	山口	110
秋田	22	福井	75	香川	57
宮城	59	岐阜	88	徳島	34
山形	83	静岡	190	愛媛	60
福島	65	愛知	495	高知	43
新潟	54	滋賀	80	福岡	201
茨城	67	京都	386	佐賀	20
栃木	66	三重	209	大分	41
群馬	79	奈良	66	長崎	32
埼玉	124	和歌山	87	熊本	85
千葉	198	大阪	764	宮崎	42
東京	2150	兵庫	282	鹿児島	45
神奈川	321	鳥取	34	沖縄	59
山梨	60	岡山	162	合計	7955

（出典） RBB TODAY (<http://www.rbbtoday.com/hotspot/>) で無線スポットを検索  
（2005年3月31日現在）



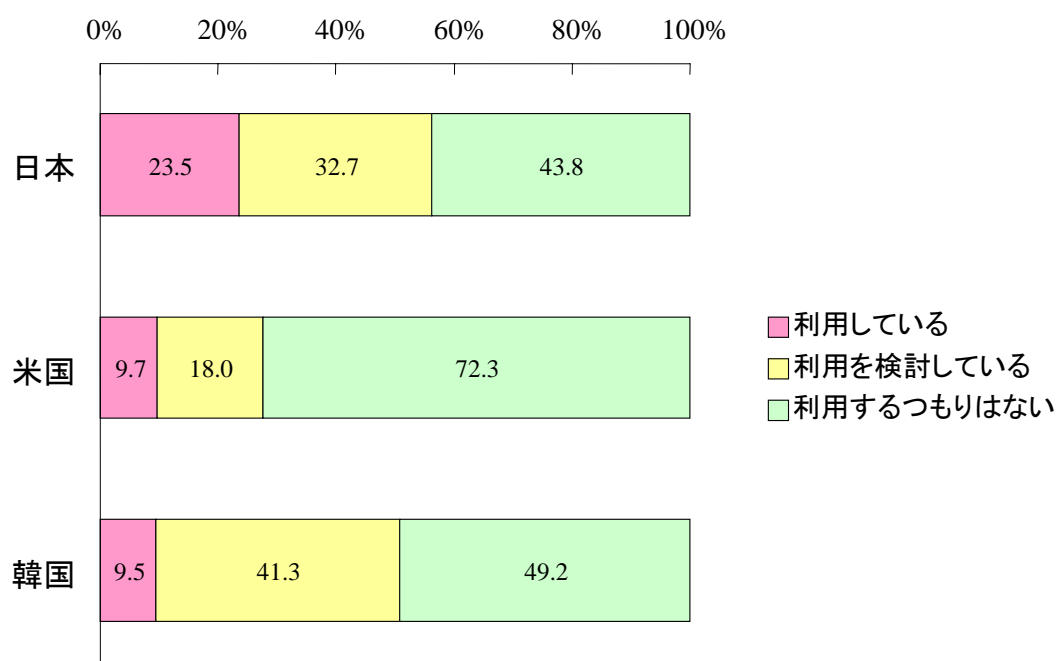
## 12. IP電話の利用状況

図表12は、IP電話の利用状況および利用意向について、日米韓の調査結果を比較している。

IP電話については、質問にもあるように「IP電話とは、ネットワークの一部又は全部においてIPネットワーク技術を利用している電話のことです」という解説しかしていない。IP電話には、加入者回線までIP技術を用いた日本の050のような特定の番号のついた専用電話機を利用するもの、通常の電話機で特定の番号に電話をかけ、そこからIPネットワークを利用するもの、パソコンで通話するものなど、各種のものが存在しているが、今回の調査では、その中でどれを想定しているかということは回答者に任せている。その結果、日本では050のIP電話が話題になっているためもっとも利用者の割合が高く（23.5%）、米国の利用者は9.7%、韓国の利用者は9.5%である。ただし、たとえばIPネットワークを利用した長距離通話サービスのように回答者が意識せずにIP電話を利用している場合も考えられるため、この数字が必ずしも正確に実態を表しているとは限らない。韓国では「利用を検討している」回答者がもっとも多く（41.7%）、米国では「利用するつもりはない」という回答者がもっとも多い（72.3%）。

図表12. IP電話の利用状況

あなたは、IP電話を利用していますか。IP電話とは、ネットワークの一部又は全部においてIP ネットワーク技術を利用している電話のことです。



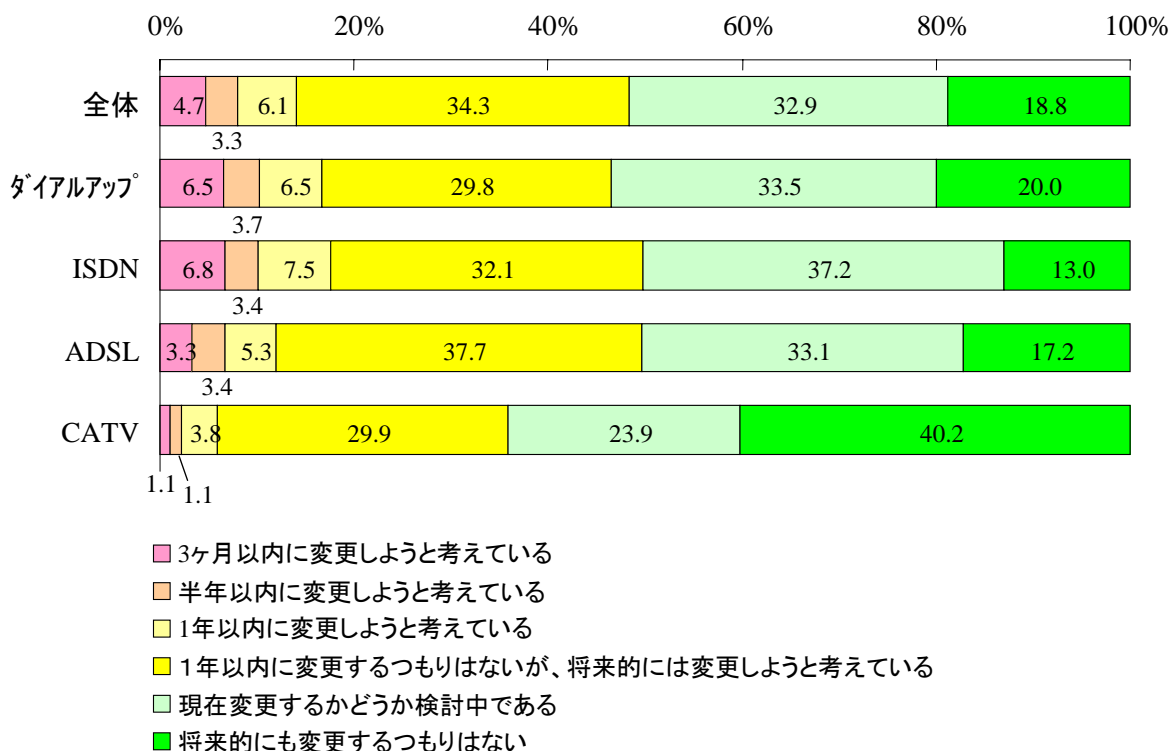
### 13.光ファイバーへの変更意向

図表13は、光ファイバーへの乗り換え意向についてまとめたものである。全体的に見ると、もっとも多いのは「1年以内に変更するつもりはないが、将来的には変更しようとして考えている」(34.3%)で、次いで、「現在変更するかどうか検討中である」(32.9%)、「将来的にも変更するつもりはない」(18.8%)の順となっている。「3ヶ月以内に変更しようとして考えている」は4.7%、「半年以内に変更しようとして考えている」が3.3%、「1年以内に変更しようとして考えている」が6.1%であり、1年以内に変更しようとしている人を合わせると14.1%になる。

これを現在の回線種別にみても、もっとも光ファイバーへの乗り換え意向が高いのがISDNの利用者で、6.8%が3ヶ月以内に光ファイバーに変更しようとして考えている。一方、CATV利用者の光ファイバーへの乗り換え意向は他の回線利用者よりも低く、40.2%が「将来的にも変更するつもりはない」と答えている。これは、CATVによるインターネット接続は料金体系がテレビ番組とセットになっている場合も多く、またADSLのように局との距離によって速度が極端に遅くなるといった問題も少ないからではないかと考えられる。

図表13. 光ファイバーへの変更意向

あなたは、インターネット接続サービスを光ファイバーに変更しようと考えていますか。



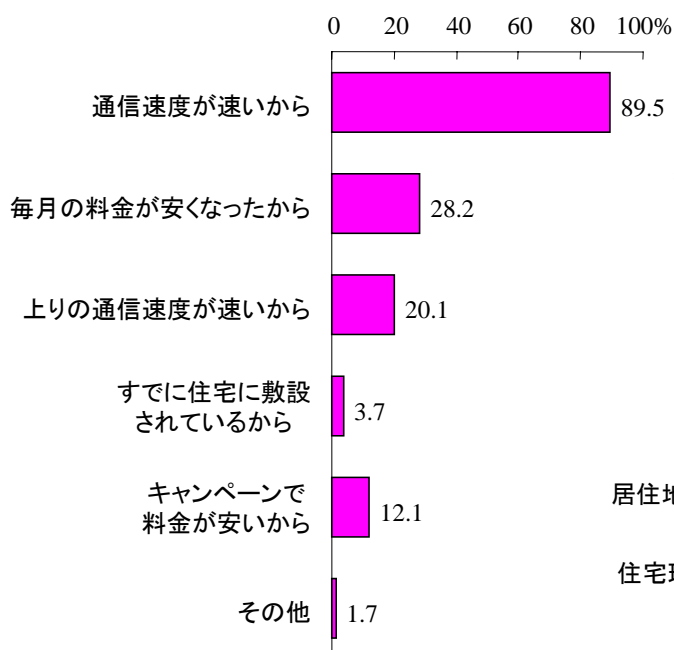
## 14.光ファイバーへの変更理由

図表14-1は、光ファイバーへ変更しようという理由をまとめたもので、約90%が「通信速度が速いから」と答えている。「毎月の料金が安くなったから」も28.2%、「キャンペーンで工事費や一定期間の利用料金が無料だから」という理由を選んだ回答者も12.1%おり、接続業者の価格戦略が一定の効果을あげていることが分かる。

一方、図表14-2は、光ファイバーへの乗り換え意向がない人に対して、乗り換えしない理由をたずねた結果をまとめたもので、もっとも多いのは「今の通信速度で十分だから」で、半数近い47.6%がこの理由を選んでいた。次に多いのは「変更の手続きが面倒だから」（33.3%）で、「毎月の通信料金が安いから」（28.8%）や「初期費用が高いから」（26.3%）といった価格に関する理由を選んだのは30%未満にとどまった。

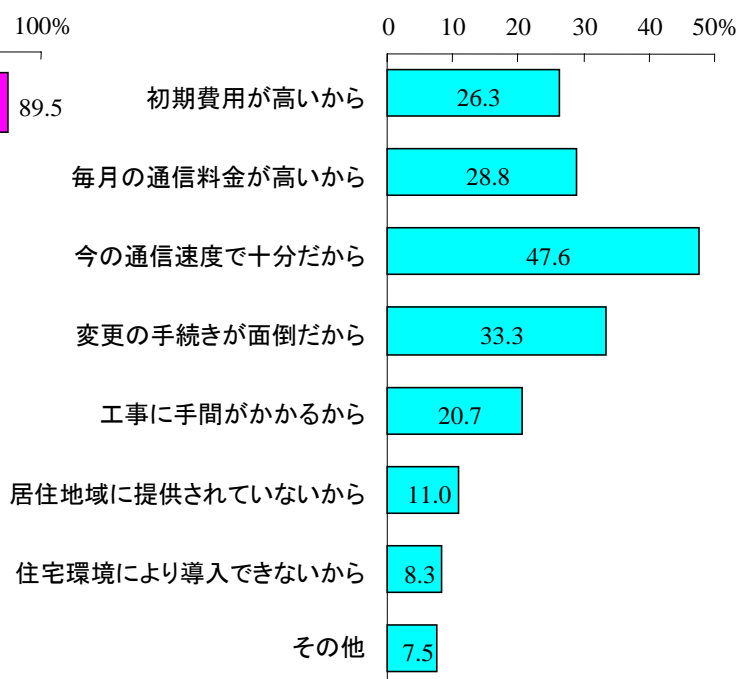
図表14-1. 光ファイバーへの変更理由

光ファイバーに変更しようと思う理由は何ですか。（いくつでも）



図表14-2. 光ファイバーに変更しない理由

光ファイバーに変更しない理由は何ですか。（いくつでも）

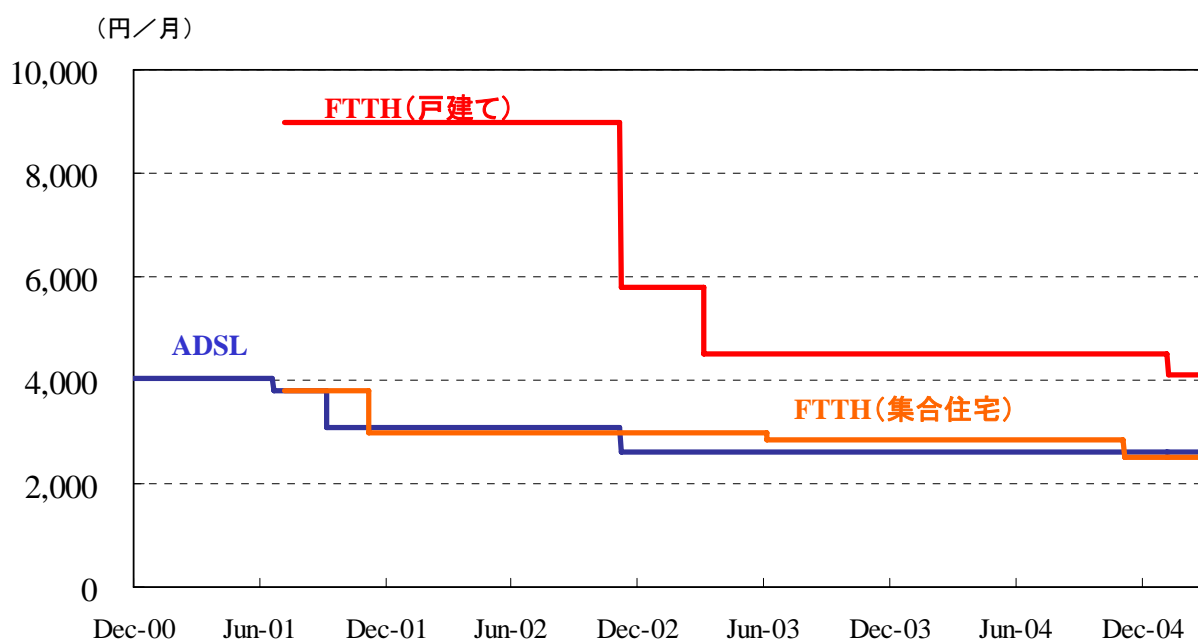


## 15. ADSL と FTTH の料金比較

図表15は、ADSLとFTTHによるインターネット接続サービス料金を比較したものである。両者ともに、NTT東日本のインターネット接続サービスである「フレッツADSL」と「Bフレッツ」の消費税抜きの月額料金を用いている。フレッツADSL、Bフレッツともにいくつかのプランがあるので、ADSLについては、もっとも安価なプラン（下り1.5Mbps、上り512Kbps）を採用し、FTTHについては、戸建て向けのプランと集合住宅向けのプランに分け、最高で下り100Mbpsの通信が可能なものの中でもっとも安価なプランを採用している。

結果は、グラフをみて分かりますとおり、戸建て向けのFTTHの利用料金とADSLの利用料金の差は、2002年までは3倍近い価格差があったが、2003年になると価格差は急速に狭まり、現在は約1.5倍程度になっている。また、集合住宅向けのFTTHは、サービススタート時からADSLとの価格差はほとんどなく、利用できる最大の帯域幅を考えると、FTTHの方がコスト・パフォーマンスがよいという状況であった。

図表15. ADSLとFTTHの料金比較



- (注) 1. ADSL, FTTHの料金ともに、NTT東日本のインターネット接続サービスの月額料金(消費税を除く)  
 2. ADSLの料金は、もっとも安価な「フレッツADSL」(通信速度は下り1.5Mbps)の料金  
 3. FTTH(戸建て)の料金は、最高で100Mbpsの通信が可能で戸建て向けのもっとも安価な「Bフレッツ」の料金  
 4. FTTH(マンション)の料金は、集合住宅向けのもっとも安価な「Bフレッツ」の料金  
 5. 初期費用やキャンペーン割引などは考慮していない

## 16.携帯通信機器の利用状況

図表16-1は、日米韓における携帯通信機器の利用状況を集計したものである。

携帯電話については、もっとも利用者の比率が高いのが日本で、調査Aと調査Bともほぼ80%である。二番目が韓国で（77.1%）、三カ国の中でもっとも携帯電話利用者の比率が少ないのが米国である（70.4%）。PHSについては、米国では類似のサービスが存在せず、韓国の利用者が12.2%、日本では約9%となっている。

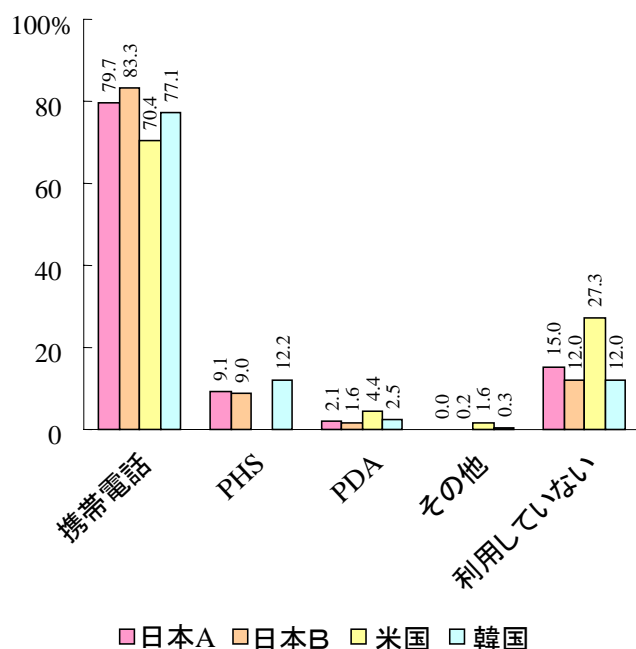
PDA（Personal Digital Assistant）は、逆に、もっとも利用者の比率が高いのが米国で（4.4%）、日本（調査Aで2.1%、調査Bで1.6%）や韓国（2.5%）では利用者は少ない。これは、米国では会社員の多くがPDAを利用しているためだと考えられる。

携帯通信機器をまったく利用していないという回答者の比率は、日本や韓国では12%から15%なのに比べて、米国ではかなり高くなっている（27.3%）。

図表16-2は、携帯用通信機器のデータ通信料（パケット料）の定額サービスに関する利用状況・利用意向を集計したものである。「すでに利用している」という回答がもっとも多いのは米国であり過半数を超えているが（51.8%）、実際には米国では携帯通信機器を利用したデータ通信はそれほど利用されておらず、「パケット通信料金」という用語も普及していないため、（調査票の質問では用語説明をしたにもかかわらず）実際には通話料金の定額サービスの利用者が誤って回答した確率が高いと考えられる。日本では、利用者がほぼ20%、検討中が40%弱という結果であった。

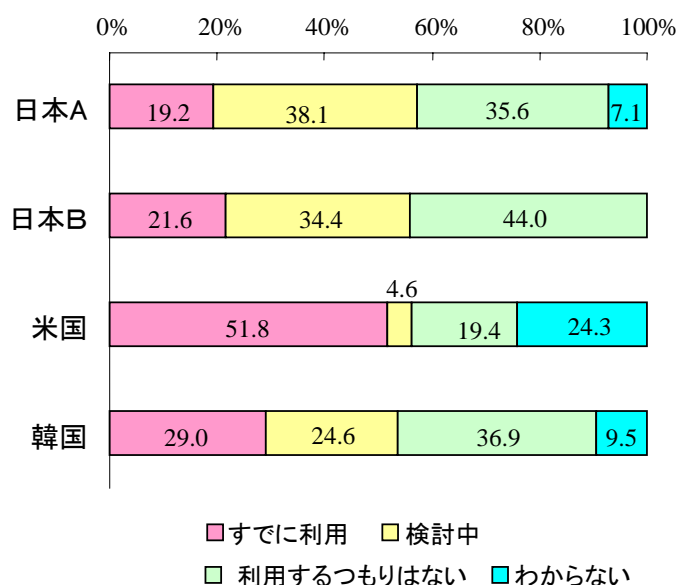
図表16-1. 携帯通信機器の利用状況

あなたは、携帯通信機器（携帯電話・PHS・通信機能付のPDAなど）を利用していますか？  
（いくつでも）



図表16-2. パケット定額制の利用状況

あなたは、携帯通信機器のパケット通信料金を定額制にしていますか。

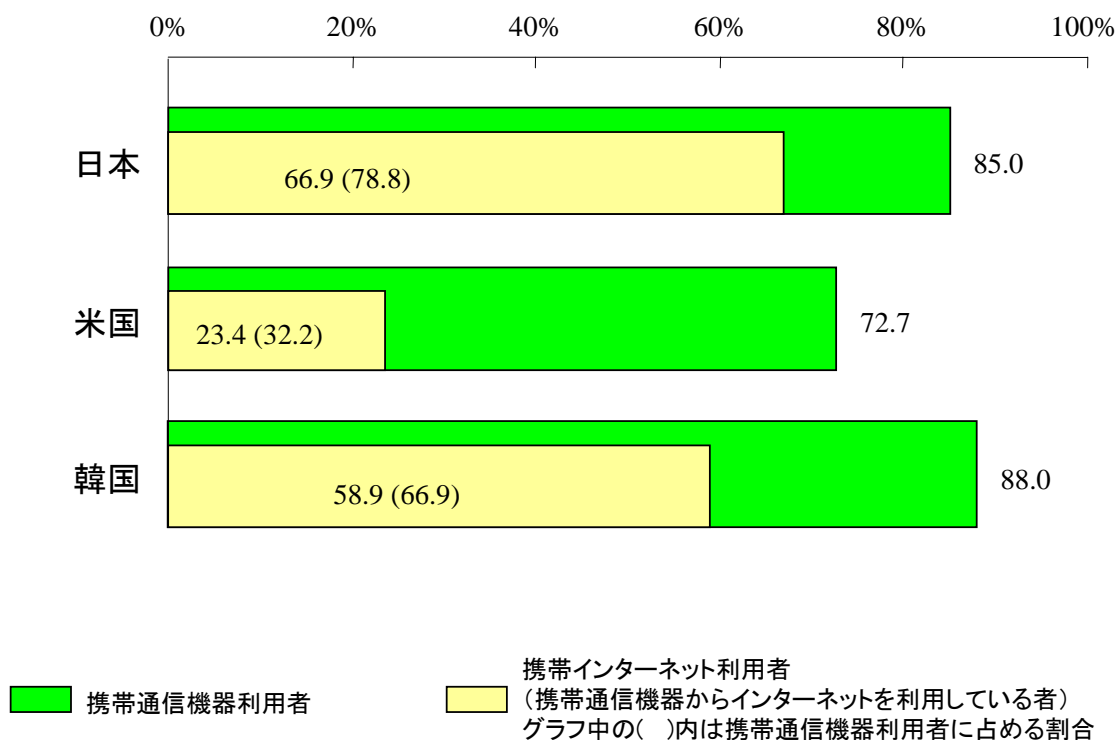


## 17.携帯インターネットの利用状況

図表17は、日米韓における携帯通信機器の利用状況と、携帯通信機器からのインターネットの利用状況について集計した結果をまとめたものである。

この図からわかるとおり、わが国における携帯通信機器（携帯電話、PHS、PDAなど）の利用者は全回答者の85.0%で、この比率は韓国（88.0%）よりは低い、米国（72.7%）よりはかなり高い。また、携帯インターネット利用者（携帯通信機器からインターネットを利用している者）が全体に占める割合は、わが国では66.9%で、これは携帯通信機器利用者の78.8%にあたる。韓国では、携帯インターネット利用者の比率は58.9%（携帯通信機器利用者の66.9%）で、わが国ほど携帯通信機器によるインターネット接続が普及していないことがわかる。また、米国では携帯インターネット利用者は全体の23.4%（携帯通信機器利用者の32.2%）にすぎず、携帯通信機器によるインターネットの利用は日本や韓国と比べて大きく遅れている。

図表17. 携帯インターネットの利用状況



## 18.携帯通信機器機能の利用状況

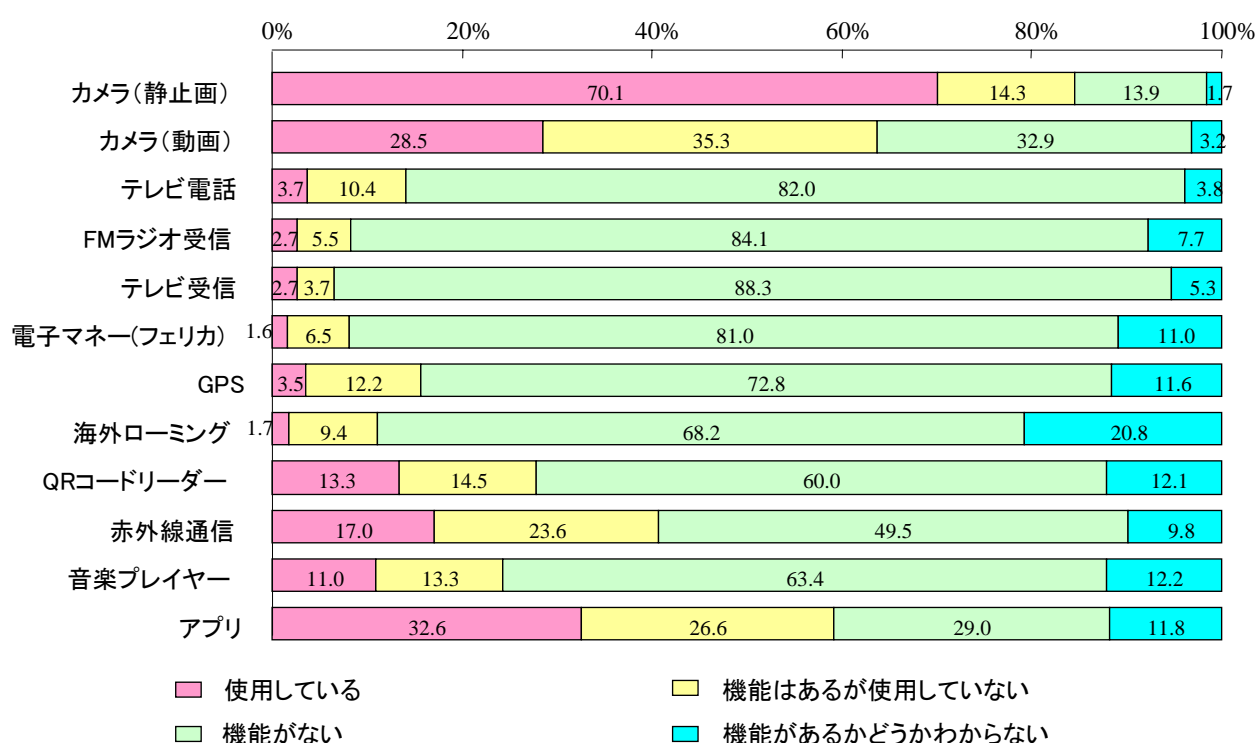
図表18は、携帯通信機器の利用者に、利用している機能を尋ねた結果をまとめたものである。携帯通信機器に付属している機能の中でもっとも利用者が多いのは「カメラ（静止画）」で70.1%が利用していると答えている。2番目に多いのは「アプリ」で32.6%、3番目は「カメラ（動画）」で28.5%、以下「赤外線通信」「QRコードリーダー」、「音楽プレイヤー」の順になっている。

また、機能はあるが利用していない人の割合と利用している人の割合を比べると、携帯通信機器に当該機能がついていることを知りながら利用していない人の割合が多いのは、「海外ローミング」、「GPS」、「テレビ電話」、「電子マネー」、「FMラジオ受信」である。これらの機能は、「機能はあるが使用していない」と回答した人の数が、「使用している」と答えた人の数の2倍以上ある。

さらに「機能があるかどうか分からない」と答えた人の割合をみると「海外ローミング」で約2割、「音楽プレイヤー」「QRコードリーダー」「アプリ」「GPS」「電子マネー」「赤外線通信」で約1割となっており、これらの機能については関心の少ない利用者が比較的多いことがわかる。

図表18. 携帯通信機器機能の利用状況

あなたは以下の携帯通信機器の機能を利用していますか。



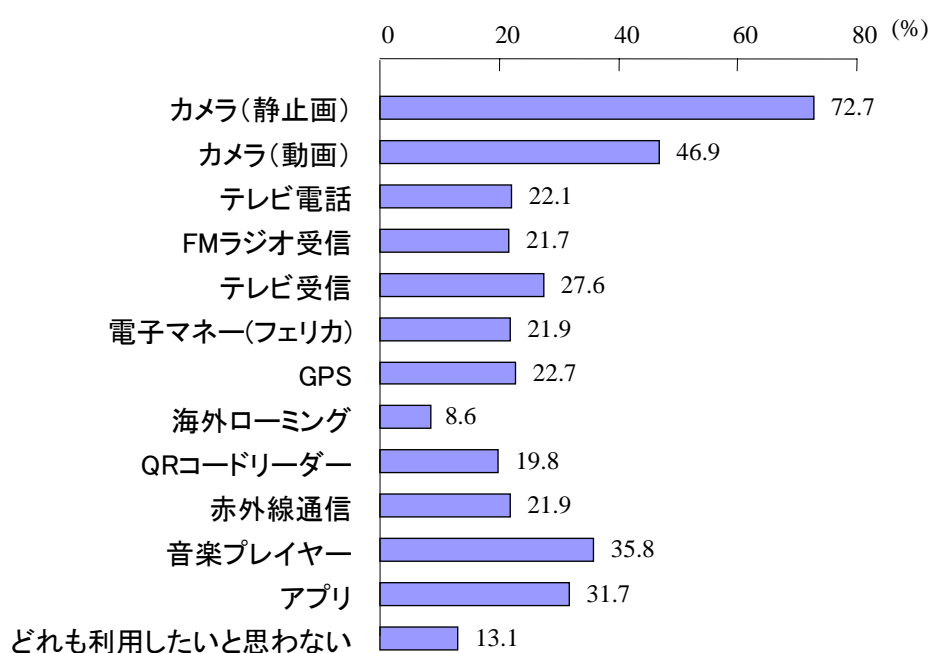
## 19.携帯通信機器機能の利用意向

図表19は、携帯電話に付属している各種の機能について今後の利用意向を尋ねた結果をまとめたものである。もっとも利用意向が高かったのは「カメラ（静止画）」（72.7%）であり、2番目は「カメラ（動画）」（46.9%）となっている。以下、「音楽プレーヤー」、「アプリ」、「テレビ受信」、「テレビ電話」、「赤外線通信」の順となっている。

この結果を現在の利用状況と比較すると、「カメラ（静止画）」や「アプリ」、「赤外線通信」については現在利用している人の割合と利用意向のある人の割合にあまり差がないことから、今後それほど利用者が大きく伸びることはあまり期待できないと思われる。一方「音楽プレーヤー」、「カメラ（動画）」、「テレビ受信」、「テレビ電話」、「FMラジオ受信」、「電子マネー」、「GPS」については、現在の利用者の割合に比べて、利用したいと思っている人の割合が多く、今後、大幅に利用が増えることが予想される。特に、音楽プレーヤーの現在の利用者の割合は11.0%であるが、利用したいという人は35.8%もあり、もっとも利用が増える可能性が高い機能である。

図表19. 携帯通信機器機能の利用意向

あなたは以下の携帯通信機器の機能を、今後は（今後も）利用したいですか。





## 20.パソコンの操作スキル

図表20は、現在と2年前のパソコンの操作スキルについて尋ねた結果をレーダーグラフにまとめたものである。

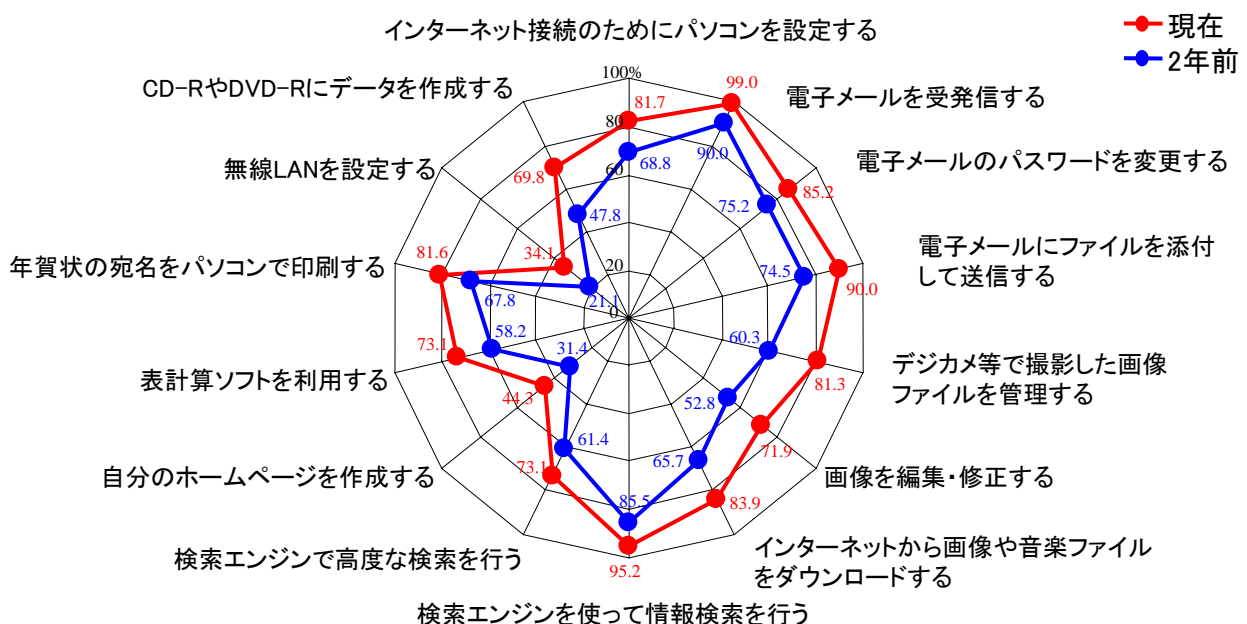
もっとも「できる」人が多い操作は「電子メールを受発信する」であり、99%の人ができると答えている。2番目に多いのが「検索エンジンを使って情報検索を行う」（95.2%）、3番目が「電子メールにファイルを添付して送信する」（90.0%）という結果になっている。

現在と2年前を比べると、どの操作についても「できる」と答えた割合が、約10%ポイントから20%ポイント増加しているが、「できる」と答えた人の増加の割合に着目すると、この割合が顕著に増加しているのは「CD-RやDVD-Rにデータを作成する」、「デジタルカメラ等で撮影した画像ファイルの管理」、「画像を編集・修正する」、「インターネットから画像や音楽ファイルをダウンロードする」で、これらの操作のできる人の割合は2年前に比べて20%ポイント前後増加している。

この結果は、パソコンで画像や音楽などのデジタルコンテンツを利用する人が増加しているという調査結果と符合するものとなっている。

図表20. パソコンの操作スキル

あなたは、現在、パソコンで以下のような操作ができますか。



## 21. 携帯電話加入者一人当たりの収入（ARPU）の推移

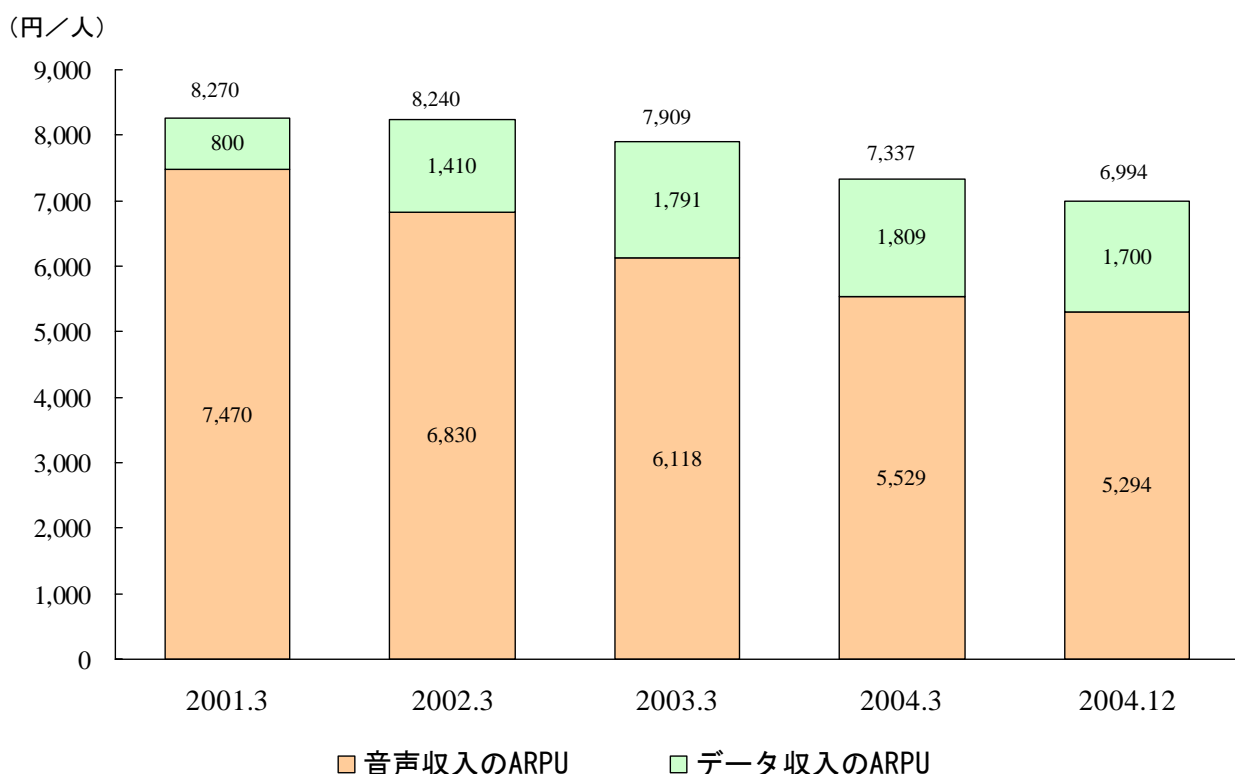
図表 21 は、加入者一人当たりの収入（ARPU：Average Revenue Per User）の推移をまとめたものである。数字は、NTT ドコモ、KDDI (au)、ボーダフォンの携帯電話サービスにおけるそれぞれの ARPU を契約者数を用いて加重平均して算出している。

ARPU は、料金の低廉化や、新規加入者の携帯電話利用量が比較的少ないこと等によって低下傾向にある。2004 年 12 月の ARPU は 6,994 円であり、2004 年 3 月の 7,337 円から 4.7 % 減少しており、2003 年 3 月の 7,909 円と比べると 11.6 % 減少している。

ARPU を「音声収入の ARPU」と「データ収入の ARPU」に分けてみると、2004 年 12 月の音声収入の ARPU は 5,294 円であり、2004 年 3 月の 5,529 円から 4.3 % の減少、2003 年 3 月の 6,118 円と比べると 13.5 % の減少となっている。また、データ収入の ARPU は 1,700 円であり、2004 年 3 月の 1,809 円から 6.0 % の減少、2003 年 3 月の 1,791 円と比べると 5.1 % の減少となっている。

グラフをみてわかるとおり、音声収入の ARPU が減少の一途をたどるなか、データ収入の ARPU は 2004 年 3 月までは増加を続けてきた。しかし、2004 年 12 月にはデータ収入の ARPU も減少に転じている。これは、パケット定額制の料金が影響している可能性がある。

図表 21. 携帯電話加入者一人当たりの収入 (ARPU) の推移  
(3 事業者平均)

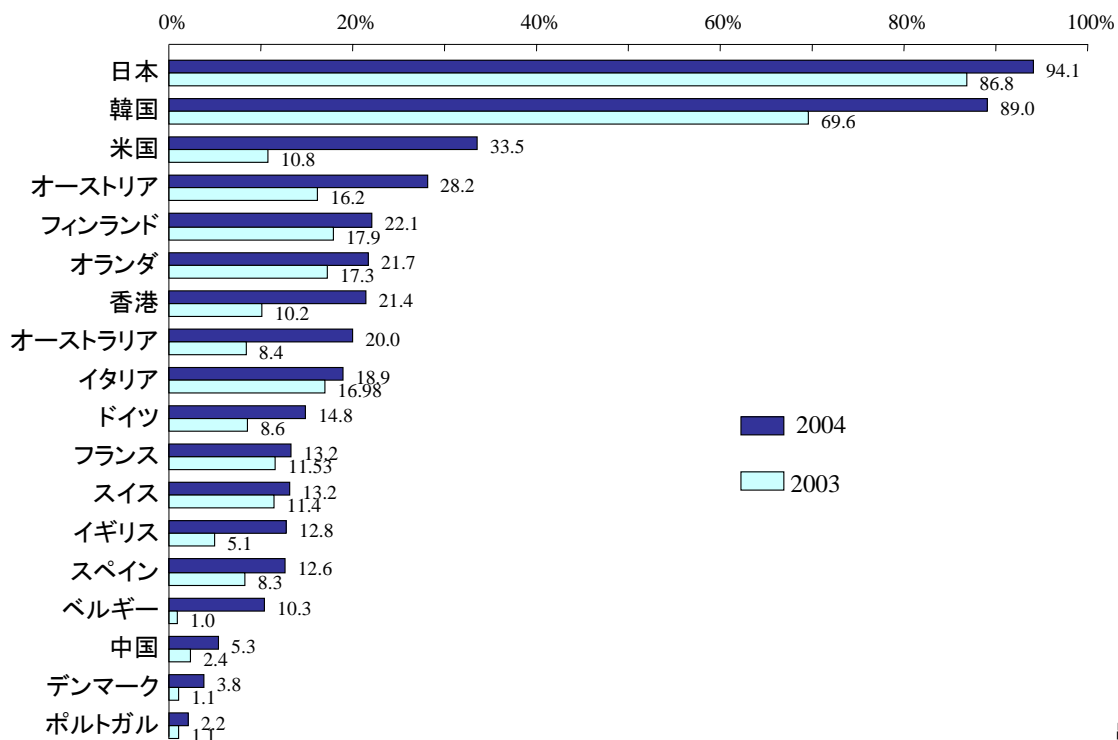


(出所)過去の情報通信白書および各社のプレスリリースからFRI作成

## 22.主要国・地域における携帯電話のインターネット対応比率

図表22は、諸外国・地域の携帯インターネットの普及状況について、各国・地域の主要な事業者における携帯電話契約数に占める携帯インターネットの契約数の比率をみると、日本が94.1%ともっとも高く、次いで韓国が87.0%、米国が33.5%の順となっている。日本は昨年引き続き、トップであるが、韓国や米国では、昨年と比べると大きく割合を伸ばしている。

図表22. 主要国・地域における携帯電話のインターネット対応比率  
(携帯電話契約数に占める携帯インターネットの契約数の割合)  
2004年9月末現在



出所：3G Mobile